

DPC 退院患者調査の見直し

1. 背景

- DPC/PDPS においては、診断群分類の妥当性の検証、診療内容の変化等及び医療機関の機能の変化等を評価するため退院患者毎の診療情報及び診療報酬請求情報からなる DPC データに基づく分析調査(退院患者調査)を実施している。
- 平成 30 年度改定に向けた退院患者調査の見直し等について検討する。

2. 具体的な見直し内容

(1) 項目の見直し

- これまでの中医協等における指摘や検討結果を踏まえ、以下の項目について追加・削除等を行うこととしてはどうか。(参考 P13-20)

【様式 1(急性期)】

(【簡】: 入力 of 簡素化、【新】: 新規追加項目、無印: 既存項目の変更、その他)

項目名	対象/内容	検討の経緯
【新】 SOFA スコア	医療資源病名、副傷病として敗血症のコーディングを行う患者について SOFA スコア(小児は pSOFA スコア)を診断時に測定	DPC 検討ワーキンググループにおいて、敗血症のガイドライン改訂を踏まえ、次回の診断群分類の検討に必要と考えられた。
	特定集中治療室管理料 1,2 を算定する患者の入室時に測定	中医協において、生理学的指標に基づく重症度スコアの測定が検討された。
【新】 手術基幹コード	手術を行った患者については、Kコードと対応する STEM7 コードを入力	中医協において、手術項目の再編の基礎データとするため追加を検討された。
【簡】 自殺企図の有無	一般病棟/その他病棟グループに入院する患者については、必須入力である当該項目の入力を任意とする。	DPC 検討ワーキンググループにおいて、診断群分類の設定には不要と判断された。
【簡】 癌取り扱い規約に基づくがんの Stage 分類	食道癌の患者は入力不要とする。	DPC 検討ワーキンググループにおいて TNM 分類と情報が重複する等のため不要と判断された。
【簡】心不全患者/ 血行動態的特徴	心不全の患者で入力必須であった、心不全の発症時期、心拍数、心調律は入力不要とする。	DPC 検討ワーキンググループにおいて診断群分類の設定には不要と判断された。

【様式 1(その他)】

項目名	対象/内容	検討の経緯
【新】要介護度	療養病棟に入院する患者については、要介護度を追加する。	中医協において慢性期に係るデータの収集を検討された。
【新】要介護情報	療養病棟に入院する患者については、低栄養情報、摂食嚥下機能障害を追加	中医協において慢性期に係るデータの収集を検討された。
【簡】がん患者/UICC TNM	療養病棟入院基本料を算定する患者については、入力不要とする。	中医協において、慢性期に係るデータ提出項目の整理が必要と考えられた。
【簡】がん患者/Stage	療養病棟入院基本料を算定する患者については、入力不要とする。	中医協において、慢性期に係るデータ提出項目の整理が必要と考えられた。
高齢者情報	認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を、現在 5 段階のものを 3 区分に分類しているため、5 段階で収集する。	中医協において、慢性期の病棟におけるデータ提出項目として検討された。
FIM	回復期リハビリテーション入院料を算定する患者については、現在入力が任意であるが必須項目とする。	中医協において、リハビリのアウトカム評価の推進が検討されており、基礎データとして収集が必要と考えられる。

【その他ファイル】

ファイル	項目	対象/内容	検討の経緯
E/F	病棟コード	全患者	医療機関の独自コードを入力されており、データの解析が困難であったため定義を変更する。
外来 EF	患者基本情報	全患者について、性別、生年月日、レセプトに記載する病名の情報を入力	現在は請求情報しか収集しておらず、解析が困難であったため、項目を追加する。
H	【簡】重症度、医療・看護必要度	判定に必要な項目に修正	必要度の判定対象とは一部異なる情報を収集(退院日の情報など)していたものをデータ作成不要とする。
様式 3	【新】病棟情報	病棟情報を反映させるため各病棟の主な入院基本料情報を入力	急性期病棟以外についてもデータ分析が求められており、各病棟についての基本的な情報を収集するため。

(2) その他

- 制度改正に伴うデータ項目の修正(介護医療院が設立されることを踏まえ、入院経路や退院先の項目として追加)を行うこととしてはどうか。
- DPC 対象病院については、すでにすべての医療機関が DPC 対象病棟以外の特定の病棟(「その他病棟グループ」)のデータを提出(データ提出加算の算定要件)していることを踏まえ、DPC 対象病院の要件として「その他病棟グループ」のデータの提出を必須としてはどうか。

### 3. データ活用のあり方

#### (1) 前回の指摘事項

- 後発医薬品の使用実態、薬剤耐性対策の指標など、診療プロセスに係る指標について公開する方向性について異論はなかった。
- 診療実績をより適切に示すため、その他病棟グループ(地域包括ケア病棟、療養病棟等)へ転棟した患者等の情報も公開するべきとの指摘があった。

#### (2) 検討

- これまで、公開データは一般病棟グループで入退院を行うデータに限定し、集計結果を公表しており、その他病棟グループに転棟した患者等に係るデータは集計値に含まれていない。
- データの利活用の観点から、診療プロセスに係るデータや一般病棟からその他病棟グループに転棟した症例についてのデータも重要と考えられる。

#### (3) 対応方針(案)

- 平成 28 年度分の集計として公開するデータについては、その他病棟グループに転棟する患者に係る集計、後発医薬品の使用状況、特定抗菌薬の使用状況等、一定の範囲について公開することとしてはどうか(参考 P23)。